

高感度地震観測データの全国流通」を記者発表

国民に的確な情報発信で地震防災対策に寄与

防災科学技術研究所は、去る4月26日、大学、気象庁とともに「高感度地震観測データの全国流通について（防災科学技術研究所、大学、気象庁による地震データの統一化）」のプレス発表を行いました。

我が国の地震観測は、これまで、様々な機関が各々の目的で実施していましたが、そのデータの流通や公開の観点では必ずしも十分であるとはいえませんでした。地震調査研究推進本部の政策委員会調査観測計画部会に設けられた調査観測結果流通ワーキンググループにおいて、すべての高感度地震観測データについて、流通を統一かつ円滑に行う上での技術的・財政的問題等の検討を重ねてきました。気象庁へのデータ提供は、従来から行われていましたが、平成13年度末、気象庁と防災科研間のデータ交換を拡充、大学と防災科研間のデータ交換を開始することにより、3機関すべてが他機関の地震波

形データ（総観測点数 約1,100）を即時的に入手できるようになりました。

このように、機関の枠組みを越えた大規模で即時的なデータ流通は、世界でも初めての試みです。データ流通は、防災科研の防災研究情報センターが中心となって行っています。同センターは、全国的な地震データの流通や、データの蓄積保存を、将来にわたり担うこととなります。インターネットを通じて、全ての地震観測データが広く研究者や一般国民に公開される体制もこれで整いました。リアルタイムで提供しあう本データ流通は、全国の研究者による地震調査研究の推進に対して加速的に貢献することができるだけでなく、国民に対する的確な情報提供を通じて、地震防災対策の向上に大きく寄与することが期待されます。

問い合わせ先：防災研究情報センター
0298-60-2310

